

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 07月 16日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 エネルギー社会環境科学専攻・エネルギー科学研究科

職 名・学 年 博士学生・3年

氏 名 LEMENCE, ALLEN LEMUEL GONZALES

助 成 の 種 類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	(1) 第20回シンガポール東南アジア研究大学院フォーラム; (2) 第7回公共政策国際会議		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	(1) Social Acceptance and Stakeholder Engagement in Philippine Rural Electrification Policies: A Qualitative Content Analysis; (2) Investigating Social Sustainability in the Philippine Electric Power Industry Subsectors through Qualitative Content Analyses of Philippine Rural Electrification Policies		
開 催 場 所	(1) National University of Singapore (NUS), Singapore; (2) Chiang Mai International Exhibition and Convention Center (CMECC), Chiang Mai, Thailand		
渡 航 期 間	2025年 06月 22日 ～ 2025年 07月 05日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	150,000 円	
	使用した助成金額	150,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	111,880
		宿泊費	24,000
		滞在費(日当)	0
		学会参加費	14,120
		その他	0
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) このたびは、助成金のおかげで東南アジアで開催された二つの学会に参加することができ、心より感謝申し上げます。手続きは分かりやすく、担当の皆様も大変親切に対応してくださいました。改善点として、申請ガイドラインや各種書類の正式な英語版が用意されることを希望いたします。		

成果の概要 / Allen Lemuel Lemence

本研究は、フィリピンの農村電化政策における社会的持続可能性の状況を明らかにすることを目的としています。政策文書を対象とした質的内容分析（Qualitative Content Analysis）を通じて、ステークホルダーの関与、社会的受容、生活の質といった要素が政策の中でどのように扱われているかを検討しました。

2025年6月16日から27日まで、シンガポール国立大学の Asia Research Institute (ARI) によって主催された「20th Singapore Graduate Forum (SGF) on Southeast Asian Studies」にて口頭発表を行いました。発表タイトルは“Social Acceptance and Stakeholder Engagement in Philippine Rural Electrification Policies: A Qualitative Content Analysis”です。

プログラム期間中、6月16日から20日にかけて Zoom を用いた6つのオンラインセミナーが開催され、6月25日から27日には全参加者による発表が実施されました。さらに、スキル向上を目的としたマスタークラスやワークショップも複数開催され、分野横断的な学びの機会が提供されました。

SGF でのフィードバックは非常に建設的なものでした。聴衆からは、分析に用いる政策文書の種類をさらに増やすべきとの助言がありました。また、研究結果が実際の政策実施においてどのように検証されるのかという点についても質問がありました。これに対して、現在は政府報告書の組み込みや、政策立案者、地方自治体、電化利用者など、さまざまなステークホルダーへのインタビューを通じて、より実践的な視点を取り入れる形で研究を継続していることを説明しました。

SGF に続き、2025年7月2日から4日にかけて、タイ・チェンマイの Chiang Mai International Exhibition and Convention Center (CMECC) にて開催された「7th International Conference on Public Policy (ICPP)」にも参加し、口頭発表を行いました。発表タイトルは“Investigating Social Sustainability in the Philippine Electric Power Industry Subsectors through Qualitative Content Analyses of Philippine Rural Electrification Policies”です。本会議は International Public Policy Association (IPPA) によって主催され、会議前には“policy learning”を政策分析の手法として活用することに焦点を当てたプレイベントにも参加しました。

ICPP でのフィードバックも SGF と同様に有意義なものでした。加えて、“integration”や“mainstreaming”といった本稿で使用した主要用語に関して、その意味や使い方について具体的な確認がありました。これらのコメントは、公共政策の専門的な言説に沿った形で内容をより明確にする上で非常に有益でした。また、セッションの座長より、編集集中の書籍に向けたブックチャプター提案の募集案内もいただき、今後の研究成果の発信に向けた貴重な機会となりました。

これら二つの国際会議への参加を通じて、研究成果の発表のみならず、理論的枠組みの洗練や、他国の社会科学研究者との交流による比較的視点の導入にもつながりました。ネットワーキングの面でも有益なつながりを構築することができ、今後の共同研究や情報交換の可能性が広がったと感じています。

両学会への参加は、博士論文の発展および国際誌への投稿準備における重要なステップとなりました。また、助成金のおかげで経済的な不安が軽減され、プログラムに専念することができた点にも心より感謝しております。本助成制度が今後も継続され、若手研究者にとって国際的な研究発信と学術的ネットワーキングの貴重な機会を提供し続けることを願っております。

Note: 本報告書の作成および翻訳には、OpenAI の言語モデル「ChatGPT」を参考ツールとして活用しました。

